



対談

地域で 頑張る皆さん

伝統工芸品や農産品のほか、工業団地もあり、働きながら安心して長く住める町です。力を合わせて盛り上げていきましょう

「**廣川町商工会青年部**の坂田和生部長。7年前、青年部で考案した、自慢の「あまおう」を使ったまちおこしスイーツ「初恋ぶっせ」は好評で、これまで3万個以上を売り上げた



「子どもたちにグローバルな感覚を」と願っている、「**廣川町国際交流協会**」の塩澄文子副会長。留学生との交流やホームステイの受け入れ支援、イベントの企画運営などを行っている



「**廣川町消防団**」の原和敏副団長。防災訓練や応急手当講習、女性団員による独居老人世帯訪問などを実施。消防団活動を通じて次世代リーダーを育てたいと考えている



「**久泉地区まちづくり委員会**」の綾戸信之委員長（写真上）と樋口りか文化部長。平成21年に地域づくり計画書「区づくり将来美ジョン」を策定し、地域課題解決のため、さまざまな事業に取り組んでいる。地区の文化祭は、年代を超えたコミュニケーションの場づくりや地域の人材発展につながっている



「**里の駅廣川くだもの村**」の中村淳一さん（写真上）と裕季子さん夫妻。14年前に3農家で直売所を始め、10年前に観光農園としてスタート。イチゴ狩りのシーズンは外国人観光客も訪れるほどの人気で、昨年はブドウ園を活用したイベントも開催。加工場を備えた店舗では、手作りジェラート、ジャムのほか、ケーキなどのスイーツも製造販売している



廣川町商工会青年部

団体紹介



創立48年の部会で、現在の会員数は56人。「初恋ぶっせ」の販促用キャラクターとして制作した「**廣川まち子ちゃん**」は後に廣川町からも公認され、さまざまなシーン、グッズに使用されている

九州ベストフーズ株式会社

食物アレルギー対応製品の製造を行う同社では、徹底した品質・衛生管理のもと、「食物アレルギーのある子にも無い子にも同じ給食を食べてもらいたい」との思いで、乳・卵を使わないハンバーグなどを製造している



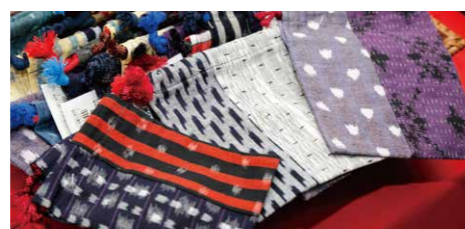
ハンバーグや肉団子などを試食した知事は「普通のハンバーグや肉団子と比べても違和感がないですね。おいしい」と完食



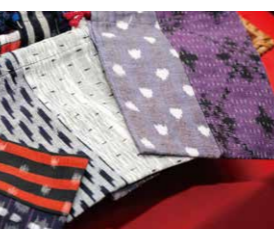
ひろかわ藍彩市場



久留米餅のジャケットを試着した知事は「軽くて体にフィットした良いデザインですね。若い後継者に産地を元気にしてほしい」と語った



廣川町商工会直営の物産販売所で、特産品である久留米餅の反物、洋服、小物などを豊富にそろえている



廣川町産の「あまおう」の風味が広がるふわふわ食感の菓子「初恋ぶっせ」。店頭で買えるのは、ここだけ

廣川町立上広川小学校



各学年の児童が集まって行われる清掃活動。知事もほうきを持って参加



上広川小学校では、異なる学年の児童たちが一緒に行事や児童会活動などを行う「なかよし班活動（縦割り班活動）」を実施。児童のリーダーシップや協調性を育てている

笑顔キラキラ教室（特別養護老人ホーム 若久園 多目的ホール）



実際に体力測定に挑戦した知事

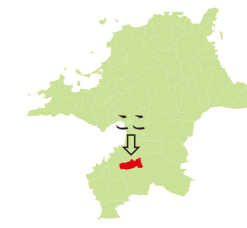


今回は介護予防に関わる連携協定を廣川町と結んでいる「久留米リハビリテーション学院」の学生の指導による体力測定が行われた



町が養成した介護予防サポーターの皆さんが運営する介護予防教室。サポーター自身のスキルアップの場でもある

小川知事が県民の皆さんと直接触れ合う「知事のふるさと訪問」。学年を超えての活動に取り組みむ小学校や伝統の久留米餅を扱う観光拠点などを訪ねました。



ひろかわまち
廣川町

平成29年11月30日

図書委員による読み聞かせ活動

株式会社おおうニンニク食品



平成28年に大任町とJAたがわの共同出資で設立された食品会社。大任町の特産品として愛されている栄養補助食品「手づくりニンニク球」の製造・販売を行う



同社では、「黒にんにくドレッシング」などの新商品の開発にも取り組む。道の駅で購入可能

大任町



はさみで一粒ずつ同じ大きさに切って作られる「ニンニク球」

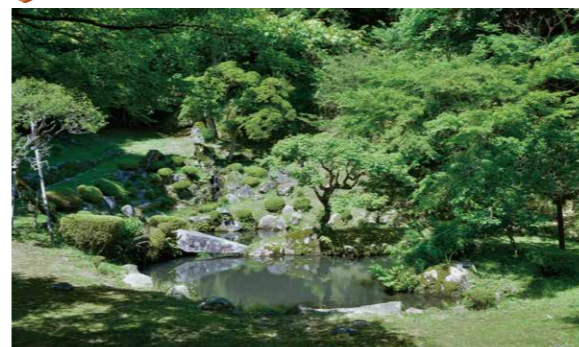


オープン当初から話題を集めている1億円トイレ。ぜいたくな空間は町の名所に



大任町では温泉館にある薬石浴を利用して医療費の削減と町民の健康増進を図る「すこやかライフモニター」事業を実施。参加者の皆さんから話を聞いた

藤江氏魚楽園



室町時代の画僧雪舟が築庭したと言われる国指定の名勝庭園。石を多く積む部分(写真奥)は「荒々しさ・若さ」を、池の部分(写真手前)は「静寂・落ち着き」を表現している



敷地内にある和モダンカフェ「亀草庵」。オリジナルのスッポンエキス入り蜂蜜「亀蜜」をかけたフレンチトーストは絶品

川崎町



窓を額縁に見立てて1枚の絵画を見るように眺められる



平成30年1月23日

道の駅おおう桜街道



西日本で最大級の広さを誇り、年間120万人以上の方が訪れる道の駅。新鮮な農産物などがそろった直売所では、大任町が環境保護と町おこしのシンボルと位置付けているシジミを使った商品も人気

川崎町農産物直売所 De・愛

温かく出迎えてくれたスタッフ・出荷者の皆さん



地元の朝採れ野菜を中心に果物、生花、特産物を使った加工品や総菜を販売している



「町を訪れるきっかけにしたい」との思いから、地元企業が鉄板焼き店を敷地内に併設

小川知事が県民の皆さんと直接触れ合う「知事のふるさと訪問」。多くの観光客が訪れる川崎町の国指定名勝庭園や西日本最大級の広さを誇る大任町の道の駅などを訪れました。

団体紹介

Big Sisters OTO姫

町のPRのために活動する大任町商工会女性部のパフォーマンスユニット。手作りのスコップ三味線を持ち、自分たちで作詞した地元愛あふれる曲を町村フェアや各種施設などで披露。今後もさまざまな場所で歌いたい張り切っている



2つの町には観光や農業などさまざまな資源があります。それらを集めて活用し、地域の特色を生かした取り組みをすることが大事だと思います。皆で知恵を出し合い、いろいろな立場から町を盛り上げてほしいです



大任町商工会女性部の永原美紀さん。町の花であるツバキを利用した「つばき油」の商品化やシジミを使った「しじみ汁」の開発などで大任町のPRに取り組む



道の駅おおう桜街道の梅林英三支配人。平成22年のオープン以来、来場者は800万人を超え、町の観光拠点となっている。高齢者や障がい者の雇用にも積極的



株式会社おおうニンニク食品の松崎一幸所長。大任町の特産品である「手づくりニンニク球」はもちろんだが、新商品の開発にも力を入れるなど、地域の農業振興に貢献している



果樹園のレストランとして人気の有限会社リュウファームの杉本利雄代表取締役。旬の食材を生かしたランチバイキング、加工品販売、果物狩りなどを通して川崎町の魅力を発信



豊前川崎商工会議所青年部の最所豊会長。青年部主催の「まつりふととうてん」は町をアピールする大きなイベント。昨年の豪雨災害時は被災地へ迅速な支援物資提供を行った



日本庭園の魅力を伝えるために活動する藤江氏魚楽園当主の藤江敬子さん。紅葉のライトアップ、和モダンカフェ、駐車場の整備などにより町内外から多くの観光客が訪れている

対談

皆さん 地域で頑張る